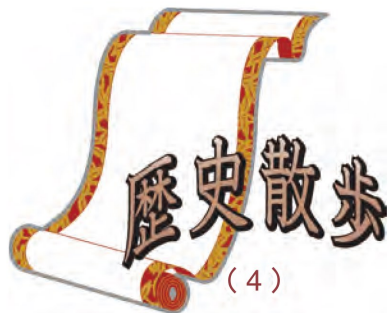




国史跡 明合古墳群

この古墳群は、安濃川右岸の経ヶ峰から派生する標高40メートルの丘陵上にあります。主墳は、2段築成の方墳で、南北の両辺に造り出しが付きその形状から「双方中方墳」

とも呼ばれています。

規模は、一辺約60メートル、造り出しを含めた全長は約81メートル、高さは約10メートルあります。この規模は、全国の方墳の中で、第10位の大きさです。

外部施設として、墳頂部および一段目のテラスに円筒埴輪列、埴丘斜面には葺石が確認され、周囲には、濠跡が巡っています。遺物としては、円筒埴輪・形象埴輪などが採集されています。埋葬施設は調査されていないので不明です。

周囲には方形の陪塚が、かつて8基あったといわれますが、現在は5基が残っています。いずれも方墳で、埋葬施設は不明です。とりわけ、2号陪塚は現存している陪塚の中では最大で、一辺約22メートル、高さ約2メートルを測り、円筒埴輪列や葺石が確認され、須恵器の破片も採集されています。

明合古墳群の形成された時期は、

採集されている遺物から5世紀初頭から6世紀初頭と推定され、主墳は5世紀初頭から前半ごろに安濃川流域の首長墳として築造されました。以後、県下でこのような規模・形態の古墳が築造されていないことを考えれば、県の古墳文化を考える上で注目される古墳群です。

(「広報津」平成18年5月1日号)



主墳の航空写真

